



国立大学法人

東京学芸大学

2020年度秋学期 担当 南浦涼介



日本語政策論

第4回 11月16日

現代の日本語教育をめぐる論点争点3

日本語教育は「語学」を越えて何をめざすのか？

授業は16:10からです。しばらくおまちください。

コメントスクリーンの準備など、よろしくおねがいします！

地域のボランティア日本語教室から

私は毎週土曜日に、地域の生活者の人たちに向けた日本語教育のボランティアをしています。

この「週末日本語教室」では、地域に住む外国人の人が日本語を学びに来ます。

いろいろな人がいます。国際結婚で外国から来た人。慣れない海外の日本で子育てをしながら生活をしている人。仕事の関係で日本に来て、休みの日に日本語教室に通ってくる人。外国から日本に転校してきた中学生——年齢も、性別もいろいろです。

私は日本語教師をこれまで、日本語学校でしてきましたが、そのときはだいたいいつも日本語が全くしゃべれない状態でやってきて、日本語学校で毎日勉強をして、そして日本の大学や大学院を目指すような留学生を相手にしてきました。たしかに色々な国籍の人がいましたが、日本語のレベルも、通い方も、進路も割と同じでした。

だから文法の積み上げをベースにしながら、同じ教科書で、長い時間をかけて文法を積み上げていくことを基本にしてくことで成立していました。



タスク1

地域のボランティア日本語教室から

でも、このボランティア教室ではそうはいきません。進学することが目的ではなく、生活していく中で日本語が今よりもちょっとずつできればいいという人たちです。だから熱心な人は毎週来ますが、たまに来る人もいます。

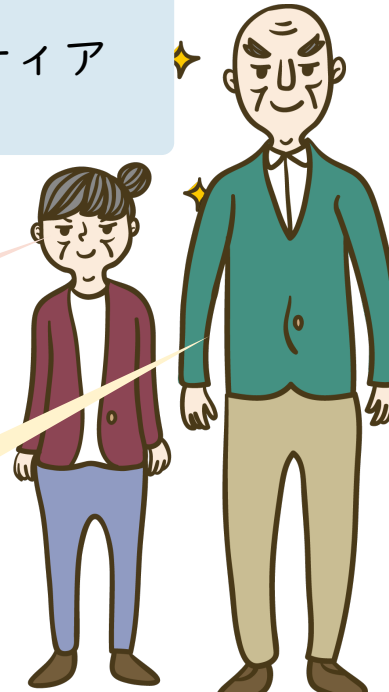
日本語のできる程度だってバラバラです。そりゃそうですね。毎日日本で暮らしているわけですから、日々いろいろな形で日本語には触れています。

もちろん触れる程度やどのように触れるかはいろいろですが、少なくともゼロから順序よく文法を学んでいくことを願っている感じではなさそうです。

私が日本語教育歴は結構長いということで、長年ボランティアをやっているBさんに相談されました。

Aさん、この週末日本語教室でどんなふうに日本語を教えていこうか、一緒に考えませんか？

今まで、文法をゼロから教えるような授業をしてきたけれど、それはなんかどうも、ここでの学び手の人に合っていない気がするんです



タスク1

地域のボランティア日本語教室から

まず取り組んだのは、「話題」（トピック）を選ぶということです。

これまで使っていた一般的な教科書はそもそも文型が中心であったこともあって、あまり「話題」について検討したことはありませんでした。

なので、「買い物」（のシーンを使って「～したいです」「いくらですか」などを学ぶ）とか、「1日のスケジュール」という話題で「〇時に～をします」などをやってきました。

でもこれは、毎日生活をすでに日本でしている人に適しているわけでもなさそうです（毎日買い物しているわけで…）。

そこで、この地域に住み、生活をしている人として学習者をみたときに、どんな話題が適しているかを改めて考えてみることにしました。

どのような話題が適しているでしょうか。

このボランティア教室で、どのような話題が適しているでしょうか？ 具体的に提示しましょう



地域のボランティア教室で見られるトピック

例えばこんな事例があります



「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集
(文化庁2015)

トピックの選定の観点

社会生活を行う上で必要な行動、それを体験したり行動したりすることを通して日本語を学べるもので選定

『にほんごおしゃべりのたね』
(西口光一 2011)

トピックの選定の観点

身近なできごとで、教室にあつまった人たちで楽しく話せたり、お互いのことが考えられたりすることができるもので選定

こんな事例も



外国人の子育て家族がつながる場づくり「イクリス世田谷」

(未来を担う子どもたちとともに―「多文化環境は楽しい!」と思える地域づくりを目指して
『日本語教育 学のデザイン』地図14 吉田千春さん)

タスク2

地域のボランティア日本語教室から

そうしたトピックをつかって、日本語ボランティア教室も前に比べて、学習者の人たちが活発に話をするようになりました。

さて、しばらくして、また同じボランティア仲間のBさんから相談がありました。

Aさん、ここしばらく、みんな前よりも楽しそうになりましたね。いいですね。

ただ、実は最近気になっていて… ここにくる人たちはみんなたしかに、日本語を勉強に来るという名目で来ています。私も含め、日本人の人は日本語を教えるという名目で来ています。で、私たちは勉強に来る人たちに日本語を「教える」ということで文法や会話をやっているんですけど…最近どうもそれが「なんか違う」という気がするんですよ。

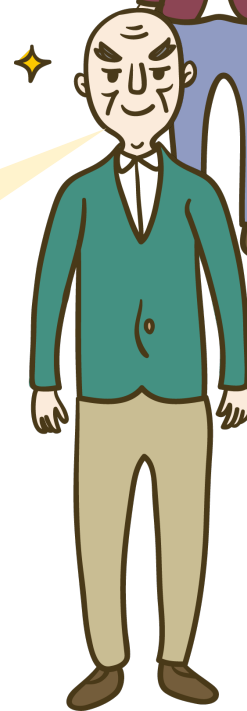
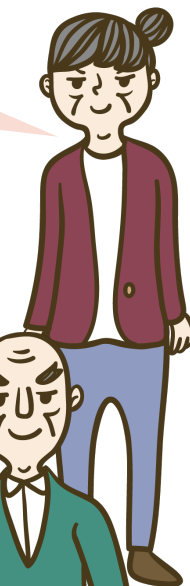
留学生だったら「大学入学」とかそういう進路の目的があるわけです。でもここに来る人はそうじゃない。

日々生活をしている中でちょっと学びに来ているわけですよ。

しかも日本語も別に「全然できない」わけじゃなくて、みんなそれぞれ、自分なりににはできる。もちろん「もっとよくしたい」というのはあると思いますが…「おしゃべりに来ている」「友達を探しに来ている」ことも多い。同じ国の人同士で固まりがちなところを、日本の地域のいろいろな人とつながりたくって来ている人も多いです。

大人同士のことも多いし、もちろん子どもものときもあります。

なのに私たちボランティアは、さも「教師」っぽい立場から「教える」ということをしているわけです。でもこれって、本当の在り方なんですかね。私たちはこの週末日本語教室をなんでやってるんだろうって——思うんです。



タスク2

地域のボランティア日本語教室から

Aさん、ここしばらく、みんな前よりも楽しそうになりましたね。いいですね。

ただ、実は最近気になっていて… ここにくる人たちはみんなたしかに、日本語を勉強に来るという名目で来ています。私も含め、日本人の人は日本語を教えるという名目で来ています。で、私たちは勉強に来る人たちに日本語を「教える」ということで文法や会話をやっているんですけど…最近どうもそれが「なんか違う」という気がするんですよ。

留学生だったら「大学入学」とかそういう進路の目的があるわけです。でもここに来る人はそうじゃない。

日々生活をしている中でちょっと学びに来ているわけですよ。

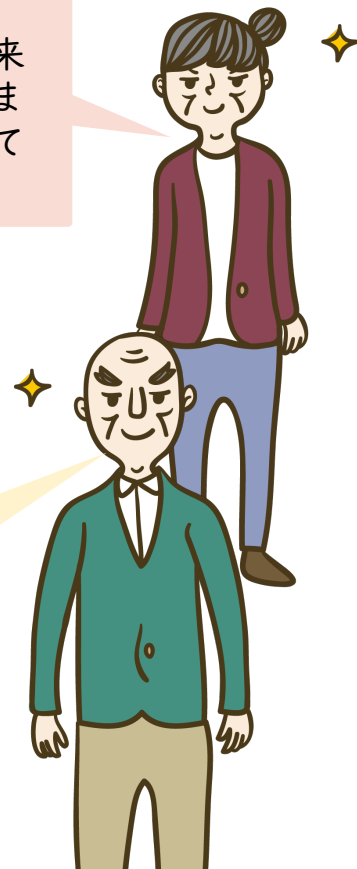
しかも日本語も別に「全然できない」わけじゃなくて、みんなそれぞれ、自分なりにできる。もちろん「もっとよくしたい」というのはあると思いますが…「おしゃべりに来ている」「友達を探しに来ている」ことも多い。同じ国の人同士で固まりがちなところを、日本の地域のいろいろな人とつながりたくって来ている人も多いです。大人同士のことも多いし、もちろん子どものときもあります。

なのに私たちボランティアは、さも「教師」っぽい立場から「教える」ということをしているわけです。でもこれって、本当の在り方なんですかね。私たちはこの週末日本語教室をなんでやってるんだろうって——思うんです。

私はこれを聞いて、うーんと考えてしまいました。

たしかに、日本語学校で明確な進路をイメージして、段階的に日本語を積み上げていくなら、「教師」というイメージもわかりやすいです。でも、この週末教室はそうした「私教える人。あなた学ぶ人」という形でいいのでしょうか…。

どういう関係性で、どんな場だったらいいのでしょうか。悩んでしまいました。



大学進学を目指す留学生への「語学」

地域に暮らし社会に生きる生活者への「語学」

対象	日本語を継続的に、段階的に学んでいく人たち。学習能力が高く、知的なエリートたち（学校的な学習者）	例）日本語を継続的段階的に学ぶわけではない。知的エリートでもない。 （学校的な学習者とは限らない）
場	毎日決まった時間、定まった期間の間学び、卒業することが前提（学校くささ）	例）時々やってくるかもしれない。学びに来るのは前提ではないかもしれない。
目的	日本語能力の向上（言語的知識の獲得、言語運用能力の向上）	例）日本語能力の向上は「メイン」なの？ 社会的関係性（つながり） 対話的关系性（おしゃべり） などはどう関わる？
内容	文法や語彙の知識の段階的積み上げ その応用として運用力を保障	すでに日本語に触れている可能性も高く、文法や語彙の段階的積み上げではないかもしれない。
方法	語彙や文型の導入→語彙や文型の練習→会話練習	？？（「日本語政策論」は方法の授業ではないので詳しくは触れないが考えることはできる cf 日本語教育教材開発論など）
教え手の像	指導者的・効率や効果に力点 教える／学ぶの明確な関係 日本語のできる日本人が、日本語のできない人に教える→ネイティブ信仰	？？（これは「日本語政策論」を通してぜひ、日本語を教える人のイメージを改めて考えてほしい 先々週の論点1と密接）
何を評価？	日本語の正確性に焦点が当たる	？？（これも「日本語政策論」をとおしてぜひ。先週の論点2と密接）

論点

地域のボランティア日本語教室から

日本語教育を考える上
での論点争点①

共同体の成員条件の緩和問題

コミュニティ
の成員条件
問題

共同体の成員として、外国から来た人を「同じ〇〇人」と認めていくことは可能か？

日本語教育を考える上
での論点争点②

共同体の共通語としての日本語 規範の緩和問題

コミュニティ
の言語規範
問題

共同体の成員条件としての「日本語ができること」は言語的厳密性か共同体的実用性か？

日本語母語話者は「共同体の用いる日本語の規範」を緩和できるか？ 寛容になれるか？

日本語教育を考える上
での論点争点③

日本語教育を「語学モデル」から 「教育モデル」として組み立て直す問題

教育
問題

地域に暮らし社会に生きる生活者としての外国人（実は留学生も、技能実習生も、子どももみんなそれ）という前提に立ったとき、日本語教育は「語学」という思想ではうまくいかなくなっていく。

日本語の教え手はどのような立ち位置で、どのような形で、どのような言語教育をめざす必要があるのだろうか？

今後のために論点に一度向き合う

- ① あなたは論点3をどのように考えますか？ 表の左側を自分なりに埋めましょう。（wordファイルでのワークシートに書き込んでいく）

	大学進学を目指す留学生への「語学」	地域に暮らし社会に生きる生活者への「 」	地域に暮らし社会に生きる生活者への「 」
対象	日本語を継続的に、段階的に学んでいく人たち。学習能力が高く、知的なエリートたち（学校的な学習者）	例）日本語を継続的段階的に学ぶわけではない。知的エリートでもない。（学校的な学習者とは限らない）	
場	毎日決まった時間、定まった期間の間学び、卒業することが前提（学校くささ）	例）時々やってくるかもしれない。学びに来るのは前提ではないかもしれない。	
目的	日本語能力の向上（言語的知識の獲得、言語運用能力の向上）	例）日本語能力の向上は「メイン」なの？ 社会的関係性（つながり） 対話的關係性（おしゃべり） などはどう関わる？	この部分を自分の考えでまずは埋めましょう。 直感的に端的に （今後深めていくための「今の考え」の表出です）
内容	文法や語彙の知識の段階的積み上げ その応用として運用力を保障	すでに日本語に触れている可能性も高く、文法や語彙の段階的積み上げではないかもしれない。	
方法	語彙や文型の導入→語彙や文型の練習→会話練習	？？（「日本語政策論」は方法の授業ではないので詳しくは触れないが考えることはできる cf 日本語教育教材開発論など）	
教え手の像	指導者的・効率や効果に力点 教える／学ぶの明確な関係 日本語のできる日本人が、日本語のできない人に教える→ネイティブ信仰	？？（これは「日本語政策論」を通してぜひ、日本語を教える人のイメージを改めて考えてほしい 先々週の論点1と密接）	
何を評価？	日本語の正確性に焦点が当たる	？？（これも「日本語政策論」をとおしてぜひ。先週の論点2と密接）	

- ② その上で、その表の意図を解説しましょう。（500字程度）
解説にあたっては、これまでに議論した2つの論点を絡めて理由付けしましょう。

「どのような共同体を作っていく必要があるからか（論点1）」

「どのような共同体の共通語をつくっていく必要があるからか（論点2）」

今後のために論点に一度向き合う

課題の目的(目的方向性:なんのためにこの課題を行うのか?)

「日本語政策」というテーマはともするととても抽象的です。また、往々にして「教育と関係ないもの」と捉えがちです。そこで、今回は「今の日本語教育を考える上での論点争点」を3つ出しました。「論点1」「論点2」「論点3」となっていくにつれて次第に「これからの日本語教育を考えるもの」になっています。

そこで、「これからの日本語教育の像」(論点3)を「論点1」「論点2」と関係づけながら、自分なりに考えてみます。

その考えが妥当であったか? もっといい視点はあるのか? を考えていくために今後、
「過去日本語と日本語教育はどのような政策がとられてきたのか」(言語政策の歴史的探求)
「世界ではどのように言語や言語教育の政策がとられているのか」(言語政策の空間的探求)
を重ねていきます。

その上で、最終レポートとして改めて同じ問いで考え、「自分の認識の変化・深化」を書いていきます。そのための、「現時点での考え」の表出作業です。

提出の方法

- ① ワードファイルのテンプレートを「一般>ファイル>第4回授業資料>中間課題Ⅰテンプレート(docx)」からダウンロードする。
- ② この授業内でできるだけ終える。(各グループの部屋でチャット機能を使って相談したり、会議室を作ってOK)
- ③ 書き終えたらteamsの「一般>ファイル>中間課題Ⅰ提出箱」に提出。ファイル名「2020 日本語政策論 中間課題Ⅰ 名前」(間のスペースは半角)